

モニタリングサイト1000の概要

◆モニタリングサイト1000とは

平成14年3月に策定された、我が国の生物多様性保全の基本的な考え方や計画を示した「新・生物多様性国家戦略」の中で、今後5年間の計画期間に着手・推進すべき7つの提案（絶滅の防止、自然の再生、移入種対策など）が示されており、その1つとして、より質の高い自然環境データを継続的に収集・蓄積する「モニタリングサイト1000」が掲げられています。

このモニタリングサイト1000（正式名称：重要生態系監視地域モニタリング推進事業）は、全国の様々なタイプの生態系（森林、草原、里地、陸水域、藻場、干潟、砂浜、サンゴ礁、小島嶼等）に1000か所程度の調査サイトを設置し、長期継続してモニタリングしていくというものです。モニタリングで得られたデータを分析することにより、生物種の減少など、生態系の異変をいち早く捉え、迅速かつ適切な保全施策につなげることが可能となります。

生物多様性センターは、平成15（2003）年度から、このモニタリングサイト1000に着手し、全体の枠組み、調査項目及び手法の検討、調査サイトの設置、試行調査等を進めてきました。

◆調査サイトの設置とデータ収集体制

我が国の自然環境の変化を把握するため、森林、里地などの生態系タイプごとに、全国的な生態的地域区分を考慮しながら調査サイトの設置を進めており、平成18年度末までに718サイトを設置しました。平成19年度末までには1000サイト程度を設置する予定です。

調査の実施にあたっては、関係する研究者や地域の専門家、NPO、市民ボランティア等とネットワークを構築し、その参加協力により長期継続的なデータの収集を行っていきます。

また、上記の調査関係者との間に情報の収集・提供システムを構築することにより、迅速かつ精度の高い情報の収集及び利用を進めていきます。

◆調査成果の蓄積と活用

収集された情報は、生物多様性センターにおいて蓄積・管理し、逐次公開するとともに、5年ごとに総合解析を行う予定です。これらの調査結果は、専用のホームページ（※）等を通じて広く公開していきます。これにより、国はもちろん、地方自治体、NPO、市民ボランティア、研究者、学校などにおいて幅広く活用されることを期待しています。

※ モニタリングサイト1000専用HPのURL：<http://www.biodic.go.jp/moni1000/index.html>